



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVET THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

2020 年が恋しくなる未来？

2020 年の自然災害は異常なのか？

専門家は今後さらなる悪化を予測



波乱の続く 2020 年、科学者によって気候変動との関連性が示されることの多い奇妙な自然災害が、いたるところで発生しているようだ。しかし将来、災害がそれほど過酷でなかった古き良き時代だったと、いまを懐かしむようになると専門家は述べる。

「自然災害は、いまよりもかなり激しさを増すでしょう。想像もつかないことですので、強調して伝えています。そして、2020 年にそれを受け入れるには、気候科学者として恐怖を感じるのです。私たちは 10 年後、きっと 20 年後、そして 50 年後には必ず今年のことを思い返し、『2020 年は実にとんでもない年だった、けれどもあの 1 年が恋しい』と話すことでしょう。2020 年という年は、2000 年の素晴らしい SF 映画のテーマになっていたとしてもおかしくないほどです。私たちはいま、新型コロナウイルス感染拡大に加えて、実際に起きている災害という災害を注視し、熟考する必要があります。その見通しはこれ以上ないほど厳しく、ただ恐怖を覚えるものです。2030 年代は 2020 年代よりもはるかに過酷な状況になるでしょう」と、ジョージア工科大学の気候科学者キム・コブ氏は語る。

気候は今後さらに過酷になる見込みではあるが、激しい異常気象に見舞われた 2020 年を次世代の人々が思い起こし、考えることで希望も存在するという。



いつの間にかマスクをしていない方が違和感を



世界各地で起こったかつてない規模の森林火災



アメリカのデスバレーでは 54.4°C を記録

このニュース記事を読んでぞっとしたのは私だけではないはずです。世界規模でのコロナ禍に加え、様々な災害に苦しめられた 2020 年でした。それが「あの時はまだよかったよね」となるような未来に、本当になってしまうのでしょうか。記事の結びは「考えることで希望が存在する」というものでした。世界で起こっていることを知識として吸収することはだれでもできる世の中です。そしてこれは子どもたちの学習にも置き換えることができます。大切なのは、その得た知識から「何を考えるか」です。教育改革元年であったはずの 2020 年。大学入試や学校教育の改革は頓挫してしまった様相を呈していますが、それ以上にはるかに強いインパクトで教育内容が問われた年でした。皆で「考え」て、2021 年にはたくさんの希望の種を育てたいです。 (石川)